

エネルギー政策フォーラム

— 原発安全革命：脱重大事故、脱プルトニウム、減廃棄物 —

東日本大震災から早や、半年、津波による死傷者は2万人を越し、福島原発の事故は、未だに暗い影を投げかけています。これからの電力供給をどうすべきか？原発の賛否を巡って論争が激しくなっています。元々、原発は、原爆として「原潜」開発技術の中から生まれたもので、戦争に勝つことだけを至上目的として急速開発されたものです。安全性への疑問は当初からありました。しかもすでに戦中に米国において、「核分裂科学原理からは、最良なのは“液体の熔融塩を燃料とした原発”であろう」とされ、戦後‘60年代に安全性の優れた原子炉として熔融塩炉の開発実験が成功裡に行われました。しかし、冷戦体制化にあつて「軍用に不向きなものは不要」と突然中止されたことは不幸なことです。電力の30%（冬場は94%）を原子力に負っている我が国は、安全で環境に優しい巨大新エネルギー技術が必要としています。熔融塩炉は液体・トリウム・小型と言う点でその可能性を持つものです。

今回、長年その開発に取り組んでいらっしゃる古川和男氏を迎え、日本のエネルギー事情の中でトリウム熔融塩炉の可能性につきお話をお伺いする場を設けました。84歳の高齢にあられる氏は「目の黒いうちになんとか実験炉を完成したい」と情熱を注いでおいでです。「人間のための技術」として核技術を位置づけ、「核廃絶の高邁な夢」に賭ける氏の講話に耳を傾けたいものです。ご同年でもある東北大学の西沢潤一名誉教授も、かねがねこの炉を強く支持なさっておられ、最初にご挨拶下さることに成っております。

と き：平成23年9月21日（水）PM:1:30～4:30
（開場1時：ブースの出展をお楽しみください。）

ところ：私学会館6階霧の間 (Tel:03-3261-9921)
〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25
JR中央線（緩行）・有楽町線・南北線・都営新宿線市ヶ谷駅より徒歩2分

定員：80人（定員になり次第締切り）

会費：一般：3,000円（企業：5,000円〔2人まで可〕、構成団体会員：2,000円）

次第：1:30 **開会の辞** 西沢潤一 世話人代表
1:40 **来賓祝辞** ペンギラン・ユスフ殿下 ブルネイ初代首相
1:45 **講演「原発安全革命：トリウム、液体燃料、小型化」**
古川和男（株）トリウム テック ソリューション社長
3:00 - 3:15 休憩
3:20 - 4:20 **パネルディスカッション「トリウム原発：実現への条件」**
司会：嶋矢志郎（財）地球環境財団理事長
パネラー：木下幹康（財）電力中央研究所原子力技術研究所特別嘱託
小野昌章 コンサルタント【元三井物産(株)資源開発・原子燃料ビジネス従事】
西沢・古川両氏もパネルにお加わり頂きます。
4:20 - 4:30 閉会の辞



主催：エネルギー政策フォーラム実行委員会

構成団体：（社）科学技術海外進出機構、世界戦略総合研究所、信勇会、日本ビジネスインテリジェンス協会、（社）地域活性化機構、NPO 知恵の輪、地球市民機構、（財）地球環境財団、NPO トリウム熔融塩炉国際フォーラム、NPO 未来構想戦略フォーラム、NPO 山元学校ほか
後援：神奈川県保険医協会

連絡先：実行委員会事務局 E-mail: jepf2100@gmail.com Tel.03-6278-7108 Fax:03-6278-7106
〒104-0061 東京都中央区銀座6-17-2 ビルネット館2-3F（財）地球環境財団内（担当：重松）

振込先：ゆうちょ銀行：店名：0一八、店番：018、普通預金、番号：6833465 名義：地球市民機構 *各構成団体、当日受付でお申込みも可。

参加申し込み E-mail: jepf2100@gmail.com FAX: 03-6278-7106 迄

氏名	肩書き	役職
E-mail	連絡 TEL	FAX
担当者	携帯	参加人数
住所		
備考（ご意見・ご要望）		